

ETV特集

“焼き場に立つ少年”を さがして

放送日：2020年8月8日 放送時間：59分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 社会科 総合的な学習の時間

この番組の良さ



● 写真が問いかける戦争の実態

原爆投下後の長崎を訪れた米軍カメラマン、ジョー・オダネルが撮影した「焼き場に立つ少年」。それは、弟の遺体を背負い、火葬の順番を待つために、直立不動で唇をかみしめる少年の姿を映したものでした。撮影から75年たつにもかかわらずその撮影日時や場所は謎に包まれたままです。番組では、写真を多角的に分析するとともに、原爆孤児らの証言をひもときながら、少年らが過ごした戦後の実態を伝えていきます。

● オダネルが見た戦後の子供たち

軍務として占領の様子や日本の軍備解体の様子を記録していたオダネルが、なぜ少年を撮影したのか。彼が撮影した写真を検証すると、次第に少年らの写真が多くなるのが分かりました。番組では戦後の悲惨な状況を目の当たりして彼の心境が変化していく様子を知ることができます。「原爆は何も救わなかった。罪のない人々を殺したただけだ」と語る本人の証言からは、戦争がもたらす凄惨な実態を考えることができます。

番組活用のポイント

● 戦争や原爆投下を 多面的・多角的に考えるために

広島や長崎への原子爆弾の投下は、第2次世界大戦において、我が国が多くの戦禍を被ったことの事例として学習します。しかし、死者数に代表されるような被害の大きさのみに焦点化されてしまうことも課題にあげられます。社会科学学習指導要領解説編では、「戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことや、平和な生活を築くことの大切さに気付くことができるようにすること」が求められています。そこで、異なる視点から戦争について考えるために、この番組を視聴することをお勧めします。番組は、長崎の原爆や投下後の状況について取り上げたものですが、他の番組のように爆撃シーンや凄惨な映像等はあまり登場しません。亡くなった弟を背中に背負い、焼き場で火葬の順番を待つ少年の姿を写した「焼き場に立つ少年」、その一枚の写真を通して、戦争で孤児として生き残った子どもたちの様子や、写真の後ろにある「戦争の悲惨さ」などを通して、戦争を多面的・多角的に捉えることができます。

● 戦争がもたらすものについて考えるために

番組は、米軍カメラマンのジョー・オダネルが撮影した少年の写真が、いつ、どこで撮影されたのかを中心に展開されます。調査の中で、戦争で親や兄弟を亡くした戦災孤児にもクローズアップしていきます。親を亡くし、住む家を失い、食べるものなく、親戚中をたらい回しにされ、ひどい扱いをうける等の悲惨な実態が浮かび上がってきます。番組を視聴することで、戦争が非戦闘員である多くの住民の命を奪うだけでなく、戦争の後にも長くつらい生活を強いられる人々がいたことを理解することができます。「長崎の焼け跡には、原爆が残した重荷に堪えるしかなかった子供たちがいました。弟の遺体を背負い、唇をかみしめる少年の姿は、戦争に最も翻弄されるのは誰なのか静かに問いかけます。」この番組の最後のコメントから、戦争がもたらすものについて問いを持ち、考えるきっかけとなります。



執筆者
西原町教育委員会
指導主事 甲斐 崇